

〈PR〉

# カラダの 相談室

鳳仁会

Riyoメディカルクリニック

院長 上利理代さん

第3回

がんの予防と再生医療



がんは突然発生するものではありません。様々な要因で傷ついた細胞の中には、自己の免疫の網をすり抜け、何年もかけて徐々にがん化していく細胞があります。そこで、自己の免疫機能を高めてがんを防ごうとする治療が注目されています。

## 自己免疫能力高める医療 0次予防で健康寿命延伸

Q なぜヒトはがんになるのですか。

A がんはある日突然、発生するわけではありません。食事や呼吸で体内に取り込まれた発がん物質や放射線、ストレスなどによって、遺伝子を構成するDNA(デオキシリボ核酸)が傷つき異型細胞となり、さらに月日を経てがん細胞になっていきます。学説によると、異型細胞(がんのような細胞)は、誰でも1日に5千個程度できているといわれています。

しかし、もともとヒトには異型細胞を排除する免疫機能が備わっています。その中で重要な働きをするのが白血球の一種であるリンパ球です。中でもリンパ球の10〜30%を占めるNK(ナチュラルキラー)細胞は、細菌やウイルスなどの病原菌や異型細胞を発見し、きわめて強い殺傷能力で攻撃を開始し排除する細胞です。

日常生活の中で、免疫機能が低下している状態が続いたり、DNA損傷が続いたりすると、異型細胞が排除されることがなく生き延びてしまい、1歩1歩がん細胞に近づいていきます。また、よくない生活習慣によって過剰な活性酸素が産生されると、直接DNA損傷を起すことや、人体にとって有害な物質となり、結果として免疫機能が障害されることもあります。

このように、自己免疫機能による排除をすり抜けた少数のがん細胞は、分裂・増殖を繰り返し、やがてがんという状態に至ります。

Q 免疫機能を高める再生治療を教えてください。

A 正常な細胞ががん細胞になるには、組織によっては10年

から20年と長い期間がかかっています。その間に自己の免疫能力を高く維持できれば、がんに向かっている細胞も抑えられ、またがん化した細胞であっても大きくなりにくいと考えられています。

免疫機能を高くする治療の一つが当院で行なっている第3種再生医療「高活性化NK細胞療法」です。この治療はご本人の血液を50cc採血し、院内の培養施設でリンパ球の中からNK細胞だけを、高活性化培養させていきます。培養後の細胞は品質安全性試験を行い、点滴で体に戻します。点滴時間は約30分です。

高活性化NK細胞療法は基本的に1クール6回投与で、患者さんの状態や目的に合わせて投与間隔や回数を決めていきます。

治療開始は、未病の段階が良いとは思いますが。しかし現実的には、がんと告知された後や治療開始後にご相談に来られる人が大半なので、患者さんごとに最善の開始時期を検討しています。化学療法後は、血球成分への影響もあるため、主治医と連携することも必要です。

なお、この治療は自由診療です。費用については施設によって違いがありますが直接お問い合わせください。

厚生労働省は予防医療として、1次「健康増進・疾病予防」、2次「早期発見・早期治療」、3次「リハビリテーションや保健指導」を推進しています。最近は一地域や環境整備によって健康維持を推進する「0次予防が重要視されています。その一環として健康寿命を延ばす試み、未病医療を担う一つが再生医療であると考えています。



あがり・まさよ 高知医科大学(現高知大)医学部医学科卒業。その後岡山大学医学部放射線科、岡山赤十字病院、びわこ成蹊スポーツ大学主任教授などを経て令和4年Riyoメディカルクリニック院長。再生医療医、統合医療医、放射線治療専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター。

☆鳳仁会 Riyoメディカルクリニック 大阪府北区梅田1の2の2  
大阪駅前第2ビル2階 19の1の1号  
TEL 06・6347・5177 <https://ryo-medical-clinic.com>